

医療安全管理委員会にて承認された適応外使用医薬品について

当院の医療安全管理委員会にて、下記の治療法が承認されました。対象者となられる方から同意をいただくことに代えて、病院ホームページにて情報を公開することにより投薬を実施しております。なお、本件について同意できない場合、診療において不利益を被ることはありません。この内容に関して拒否される場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

実施内容	せん妄に対する抗精神病薬の使用
実施責任者	弘前大学医学部附属病院 医療安全管理委員会
対象者	当院で治療を受ける患者で、せん妄を呈した患者
承認日	2022年10月11日
対象期間	承認後から永続的に使用
概要	<p><b>【目的・意義】</b></p> <p>一般病棟入院中の患者に対して、せん妄の治療をする際は、抗精神病薬（クレチアピン、オランザピン、ペロスピロン、リスペリドン、アリピプラゾール、ハロペリドール）が保険適応外使用されています。抗精神病薬の適応外使用については、社会保険診療報酬支払基金が公表している審査情報提供事例において、せん妄に対する処方としてハロペリドール、リスペリドン、クエチアピン、ペロスピロンが記載され、社会的にも認知されています。ガイドラインや文献、書籍等においても、抗精神病薬が治療選択肢として記載されており、当院においても個々の事例に合わせて抗精神病薬を選択して実施します。初期対応については、追加資料を参照ください。</p> <p><b>【想定される不利益と対策】</b></p> <p>各薬剤の添付文書に記載された用法用量に準じて治療を行うため、一般的に想定される副作用と同等と考えられます。副作用が出現した場合には、通常の診療にて対応を行い、必要に応じて各専門医とともに治療にあたります。</p>
お問い合わせ先	弘前大学医学部附属病院 医療安全推進室 代表 0172-33-5111（内線5175）

以上

## 追加資料

### せん妄対策 不穏時の投与量目安

成分名	当院採用品	不穏時投与量目安	備考欄
クエチアピン (Quetiapine)	クエチアピン錠25mg クエチアピン細粒50%	不穏時25～50mg/回 2時間以上開けて3回まで	半減期短い 糖尿病患者禁忌
オランザピン(Olanzapine)	オランザピンOD錠2.5mg	2.5～5mg/回 2時間以上開けて3回まで	糖尿病患者禁忌 抗コリン作用が比較的強い
ペロスピロン (Perospirone)	ルーラン錠 4 mg	4～8mg/回 2時間以上開けて3回まで	半減期短い 糖尿病でも腎機能が悪い場合でも使用可能
リスペリドン(Risperidone)	リスペリドンOD錠 1 mg リスペリドン内用液分包0.5mg リスペリドン内用液分包1.0mg	0.5～1mg/回 2時間以上開けて3回まで	液剤は効果発現が速い 腎機能が悪い場合は効果が遅延
アリピプラゾール(Aripiprazole)	アリピプラゾールOD錠 6 mg	3～6mg/回 2時間以上開けて3回まで	低下活動せん妄に有用な可能性がある アカンジアのリスクがある
ハロペリドール(Haloperidol)	セレネース0.5%5mg/mL	内服不可の場合 5mg/回+生食100mL 静穏化したら中止・30分で滴下 2時間以上開けて2回まで	経静脈投与は副作用が少ない 抗コリン作用は比較的少ない パーキンソン病に禁忌

#### 参考資料

日本総合病院精神医学会. せん妄指針改定班せん妄に臨床指針. 羊土社.2015/11/25

井上 真一郎. せん妄診療実践マニュアル. 羊土社. 2020/4/10